

ともえ No. 78

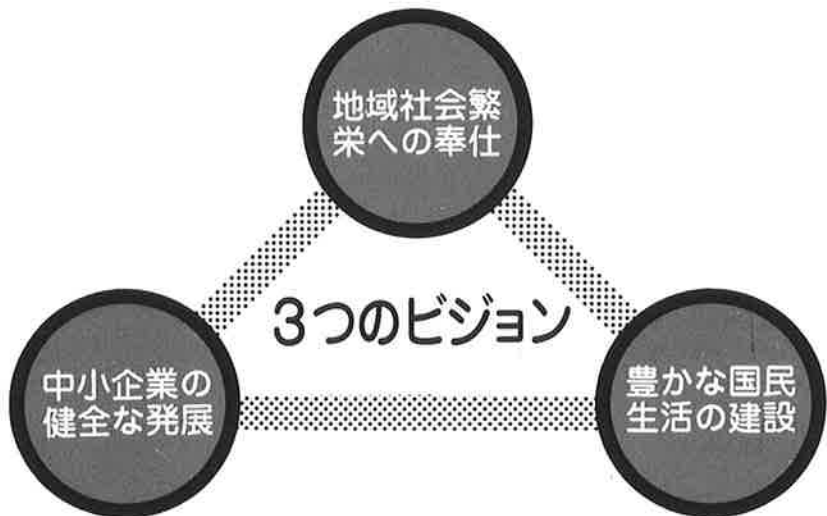


'88 青函博 みんなの力で成功させよう!



■ 函館商工会議所報 ■
1987 8月号

行動する
はつらつたる
商工会議所



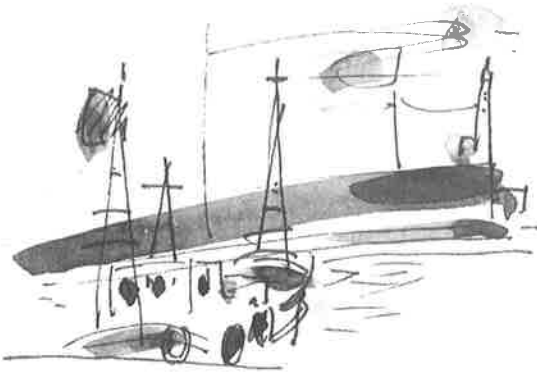
はこしんは豊かな暮らしと
 確かな未来の実現に
 お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡志山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

視点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
Q & A	16
青函博コナー	18
ティータイム	20
ご案内	22



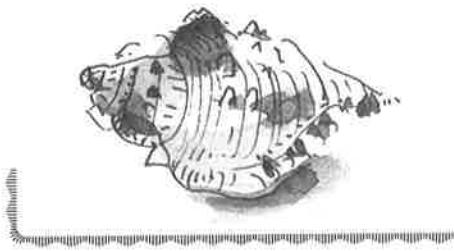
● 視点

間もなく八月も終わりますが、子供達にとって楽しい夏休みは、いかがだったでしょうか。海に山に、そしてまた、「まち」の中にも楽しい遊びの場所を見つけて、しばしの自由時間を楽しんだことでしょう。

ただ、高校や中学校の三年生にとつては大変な夏休みであつたと思います。これは就職ということもありますが、多くは進学のための準備です。特に大学受験の場合は、就職との関係で有名大学への競走は激しく、東京などでは、そのために幼稚園の段階から厳しい競走が始つていくとのこと。しかし、日本の大学は入学の難しさとは逆に、卒業は楽なようです。欧米諸国では、入学については色々あるようですが、卒業するためには厳しい努力が必要なこととは当然とされており、勉強しなくともトコロテン式に卒業できることは考えられません。

日本のこの受験地獄を解消する一つの方法として、大学の間口をもう少し広くして、希望者を入り易くし、逆に卒業天国はやめて一定の水準以上に達した者のみに卒業を認めるということが、時間はかかるが最も良い方法でないかといわれています。経済界としても高校生と大して変らない大学生を一段上の給与水準で採用する時代ではないと考えざるべきです。日本の人口もあと二十年位で静止します。そうすると大学の四年間は労働力としても貴重なものといえますが、今受験地獄にさいなまれていた子供達を救う意味でも、この大学教育のあり方に注目すべきと考えます。

会 議 所 の 動 き



第37回

全道商工会議所大会

北海道商工会議所連合会設立四十周年を記念して第三十七回全道商工会議所大会が七月二十三日札幌市において開催され、当面する道内経済問題を中心に活発な討議が交されました。

本所からは川田会頭ほか副会頭、議員十二人が参加しました。

午前中、四分科会が開かれ本所関係では川田会頭が開発促進・産



炭地振興分科会の議長を務めたほか、金融税制分科会では加藤副会頭から「北海道東北開発公庫の機能の拡充強化について」、運輸観光分科会では高野副会頭から「北海道新幹線の建設促進について」、下郡山副会頭から「観光振興対策の推進について」それぞれ提案理由の説明を行いました。

午後からは来賓を含め約六百人が参加し記念式典と大会が開かれ、主催者として道商連、今井会頭から「現下の道内情勢からみて、民間の活力をひきだす媒体として、商工会議所の果す役割は益々重要である。参加者各位には各地において一層のご活躍を願う。」との挨拶があり、さらに日商会頭（代理）、平戸道通産局長、横路知事等から、「これまで北海道を支えてきた基幹産業が深刻な事態にある中で、今や産業経済は大きな歴史的転換期を迎え、新しい産業基

盤を構築していくため、地域経済団体としての商工会議所のリーダーシップに大いに期待したい。本道の新たな発展のため尚一層の協力を」との祝辞があった後、今井会頭を議長に議事に入りました。会議はまず午前中討議された議案について四分科会の議長から夫々報告が行なわれ、二十六件にわたる全議案は満場一致議決されました。

次いで特別提案として①特定不況地域振興対策の推進、②オリンピック冬季競技大会旭川招致、③北方領土の返還要求運動の促進の三件が上程され、これも満場一致可決され、最後に本日決定された議案の実現を期するとともに、全道商工会議所は新たな熱意と連帯意識のもとで、持てる機能を最大限に發揮し本道経済の健全なる発展と道民生活の安定向上に一層の努力を傾注するとの宣言、決議を議決し盛会裡に閉会しました。

尚、今大会で決定された議案は道商連事務局で整理のうえ、遂次関係機関に陳情、要望、建議することになっております。

函館・東京線複数社運航 並びに三千メートル滑走路を陳情

当商工会議所では、函館空港三千メートル延長の早期着工と、羽田空港滑走路の拡張工事が来年七月完成し五十便が増え、その乗入れが、この秋頃から検討される事を踏まえ、函館・東京線の複数社運航について八月五日川田会頭、高野副会頭が上京し、運輸省をはじめ関連官庁及び地元選出国會議員に陳情しました。特に北海道開発庁では綿貫長官はじめ、政務次官、事務次官に直接陳情内容を説明し協力方を強く要望しました。

複数社運航については①昭和六十一年度、函館・東京線の乗降客が七十二万二千人で、複数社運航基準に達している。

②観光シーズン中、満席で地域の経済的損失も大きい。この解消には、機材の調達などから複数社運航が必要である。

③各種イベントの開催も多く、特に昭和六十三年には青函トンネル

開通記念博覧会、六十四年には国民体育大会の開催、そして通年観光対策等の実施による観光客の大幅増が見込まれる。

④函館圏一市三町はテクノポリス地域に指定され、地場産業の育成、新規産業の誘致、産業構造の転換等を進めており、今後は特に東京、大阪方面との航空需要が見込まれる。

⑤昭和六十一年度の航空貨物は前

年比約一〇パーセント伸び、今後も順伸の傾向が続くものと推定されている。

⑥昭和六十三年三月のＪＲ津軽海峡線の営業開始による広域観光圏の確立と四全総による青函インターロック構想とあわせ、人的・物的交流の飛躍的拡大が期待される。等の意見を経済界単独で陳情をするとともに忌憚のない意見交換をいたしました。

しかし今後の利用客の確保については、通年観光などを含め地元としても早急な対策の確立が望まれます。

系の整備は非常に遅れております。因みに、全国の高速自動車道の供用区間は、計画区間全長七千五百二十六キロメートルに対し五千二百パーセントの三千九百九キロメートルに達していますが、北海道では僅か十五パーセントの百六十六キロメートルの供用に過ぎず、本州と大きな差があることは否定できません。

このような状況を踏まえ、全道の地方自治体と経済界で構成されている北海道開発幹線自動車道建設促進期成会では、我孫子副知事を始め、川田会頭ら関係者により、八月七日、建設大蔵両省、道開発庁、国土庁に対し、昭和六十三年度を初年度とする第十次道路整備五ヶ年計画において、(一)着工路線の早期完成(二)整備計画区間の早期着工(三)基本計画区間の整備計画区間への組み入れ等を陳情、均衡ある国土の発展という見地から北海道に対する理解と協力を強く求めました。

なお当地域では、既に函館・長万部区間の函館側からの工事着工について陳情しております。

道縦貫自動車道 建設促進期成会中央陳情

青函トンネルについては、昭和三十九年調査坑に着工して以来、二十数年を経て、漸く明年三月営業開始となり、待望の本道と本州が陸路で結ばれ、二十一世紀へ向け青函インターロック構想の中軸として新しい途が開かれようと

しております。

一方、東北縦貫自動車道も昭和六十一年七月、十和田・碓ヶ関間二十八キロメートルの完成により東京・青森間が全線開通しました。このような本州側の状況と比較して、本道の陸路における交通体

一万人踊りパレードに市民酔う

本所職員ら46人参加

開港129年記念
函館港まつり



開港百二十九年を迎え、今年の函館港まつりは、八月一日から一週間にわたって多彩なイベントのもとに、賑やかに繰り広げられました。

本年は青函博の前年にあたるため、港まつりを契機に若者の力を盛り上げ、この力を青函博につなげていこうという意気込みが随所

にみられ、活気あふれるお祭りになりました。

まず一日には、豊川岸壁でオーピングステージが開かれ、各種ショーや新ミス函館の披露なども行なわれ、港まつりの幕が切つて落とされ、夜には名物となった全函花火大会が港内で催され、八百四十発の華麗なる花火が夜空を彩りお祭り気分を一挙に盛り上げました。

二日の日曜日には大音楽パレードの他、函館駅前―松風町電停間の駅前通りを「歩行者天国」に開放しての青空コンサートやゲーム大会など、楽しい催し物が繰り広げられました。

三日には新潟市を新しく加えた開港四都市のミスと港まつり協賛会役員との交流レセプションがありました。この後、各都市のミスは揃って一万人踊りパレードに参加し、錦上花を添えました。

函館港まつり最大のイベントである一万人踊りパレードは、市消防音楽隊を先頭に開港四都市のミスも先導として加わり、例年より一時間早い午後四時に末広町銀座通りをスタートしました。

パレードでは、それぞれ参加団体毎に揃いの浴衣やハッピーを着て踊り歩くとともに、「独眼竜政宗」や「土方歳三」の人形など、趣向を凝らした山車も繰り出し例年に

本所主催による第四十回函館地区珠算競技大会が、七月十九日、本所で開催されました。

今回の大会には、百四人が参加し、それぞれ一般・高校の部、

中学校の部、

小学校の部

にわかれて

技を競い

△個人▽

「そろばん函館一」

小野慶子(遺愛高)

「そろばん中学生函館一」

日沼祐子(戸倉中)

「そろばん小学生函館一」

高橋 愛(鷲ノ木小)

「そろばん函館二」に小野慶子さん 函館地区珠算競技大会

。高校の部
。中部高校
。中学校の部
。戸倉中学校

△団体▽

今年、史上最高の八十一団体一万三千人が参加(昨年九千五百人)し、本所からも職員、婦人会など総勢四十六人が、揃いの浴衣姿で参加、沿道の見物客から声援をうけていました。

函館地区代表選手として出場することになっています。当日の競技の成績は次のとおりです。

競技結果(一位のみ)

事務局日誌

7月



*** 正副会頭会議**

- 14日 第37回正副会頭会議
- 27日 第38回正副会頭会議

*** 会議 (日商)**

- 16日 第354回常議員会
- 24日 昭和62年度北海道ブロック商工調停士研究会

*** 会議 (道商連)**

- 2日 第127回全道商工会議所専務理事・事務局長会議
- 6日 第3回運営委員会
- 22日 第128回全道商工会議所専務理事・事務局長会議
- 23日 道商連設立40周年記念・第37回全道商工会議所大会

*** 審査会**

- 8日 小企業等経営改善資金の審査会
- 28日 “ ”

*** 諸会議**

- 1日 青函トンネル資材協力会総会
- 〃 所報「ともえ」No.77(7月号) 編集会議
- 2日 日本団体生命懇談会
- 〃 第10回北海道生命共済振興会総会
- 〃 水産関連業界緊急対策協議会総会
- 〃 経営安定特別相談室推進会議
- 3日 議員会役員会
- 〃 世界・食の祭典推進協議会事務担当者会議
- 〃 成功させよう青函博の会ホスピタリティ運動部会
- 4日 箱館奉行所復元促進期成会幹事会
- 8日 「世界・食の祭典」JUNO'S JAPAN'88
ハコダテプレビュー (説明会)
- 9日 函館市交通事業経営審議会
- 〃 函館駅前商店街診断事後報告会
- 〃 湯川商店街診断打合せ会議
- 10日 婦人会例会
- 〃 箱館奉行所復元促進期成会役員会並びに定時総会
- 〃 経営者協会金曜会
- 〃 青年会議所全国大会主管候補現地調査懇談会
- 11日 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会
- 14日 函館繊維商組合役員会
- 〃 函館空港整備促進連絡協議会
- 〃 特定地域中小企業振興計画案作成に係る検討会議
- 〃 七飯浜慰霊碑建立打合せ会
- 〃 函館市交通事業経営審議会
- 15日 函館圏企業誘致推進協議会第2回幹事会
- 〃 北海道経済連合会第2回青函博実行委員会
- 17日 函館市交通事業経営審議会
- 20日 プレ青函博実行委員会企画委員会
- 21日 昭和62年度北海道・東北ブロック「経営安定特別相談室」設置商工会議所担当者会議
- 〃 函館商業活動調整協議会

- 24日 青函連絡船の存続を推進する協議会
第1回青函連絡船活用方策検討委員会
- 〃 函館港まつり協賛会
一万人踊りパレード責任者会議
- 27日 成功させよう青函博の会ホスピタリティ運動部会
- 〃 販売士協会理事会
- 28日 成功させよう青函博の会プレ博全体会議
- 29日 小規模企業振興委員連絡会議
- 〃 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会
- 30日 警察行政懇談会
- 〃 所報「ともえ」No.78(8月号) 編集会議
- 31日 函館市交通事業経営審議会

*** 講習・催物**

- 1日 記帳講習会
- 8日 記帳講習会
- 10日 経営者協会講演会
「職場の労働法セミナー・ホントカウソカ徹底説明」
- 〃 法律相談
- 15日・16日 第34回秋冬物函館靴履物卸合同見本市
- 15日 記帳講習会
- 〃 発明相談
- 19日 第40回函館地区珠算競技大会
- 22日 記帳講習会
- 〃 経営相談
- 25日 法律相談
- 30日~8月4日 函館クラフト展

*** 検定試験**

- 8日 販売士検定試験(3級)
- 12日 ワープロ検定試験(3級)

*** 刊行物**

- 20日 所報「ともえ」No.77(7月号) 発行

*** 相談・診断**

金融 173 税務 219 経理 65 経営 174
労働 21 取引 1 その他 4 計 657

*** 貸室**

本館 23 別館 5

*** 文書**

受信 287 発信 30

*** 慶弔・その他**

- 1日 函館港開港129年記念式典
- 3日 青函博附帯施設(バザール館)設置についての調査
- 6日~10日 経営指導員研修
- 7日 函館倉庫協会創立40周年記念式典並びに祝賀会
- 8日 青函博函館EXP O'88「レッツ・ジョイン青函博」
- 9日 盛岡商工会議所振興委員研修視察団訪問
- 18日 函館市勤労青少年優良者表彰
- 20日 海事功労者表彰式並びに祝賀会
- 22日 北海道開発推進道民総決起大会
- 25日 第12回「高田屋嘉兵衛まつり」顕彰式、祝賀会
- 30日 プレ博'87「エキサイティング函館」
オープニングセレモニー
- 31日 青函トンネル開通記念体験ウォーク・セレモニー
松江エンジニアリング(株)第二工場落成式

65年の伝統と信用を誇る

早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

発明相談 9月16日 水曜日午後1時から午後5時まで、函館商工会議所で開催いたします。相談は予約制になっていますので、商工会議所相談課 (23-1181・内線63番) にお申し込み下さい。

(乳加工品)

練乳の荷動きは、需給引き緩みから依然鈍く、在庫も積み上がっているものの、粉乳の出荷が菓子、清涼飲料等向けを中心に順調なほか、市乳の売れ行きも持ち直しているため、全体としての生産水準は漸次上昇。

(漁 網)

スケトウ漁用等底引網やイカ刺網の荷動きは堅調ながら、定置網の不調やマグロ不漁等に伴う旋網の不振が響き、生産・出荷は依然として低迷。

(その他の製造業)

合板(薄物)では、住宅、家具、家電向け出荷が引き続き好調なほか、市況も強含みで推移しているため、目一杯のフル生産を続行。セメントの荷動きは国の予算執行の遅れを映じて公共土木向けが幾分鈍いものの、民間建築の盛行に支えられて、生コンとともに比較的順調。

(建設関連)

管内主要官公庁の公共事業発注状況は、出遅れていた一部官庁の発注がここへきて漸く本格化し、6月末における発注進捗率も約7割に達するなど好調裡に推移。このため、建設業者の受注は、ホテル、病院、マンション等民間建築の盛行と相俟って、大手・中堅筋を中心に好調。

(農 業)

農作物の生育状況は、主力水稻が「良」となっているほか、馬鈴薯、大豆、小豆等も「やや良」と総じて順調ながら、害虫(アワヨトウ)の異常発生に伴ない牧草等に被害が発生、先行きが懸念されている状況。

(漁 業)

近海マイカ漁は、55年以来7年振りの豊漁となっており、水揚げ数量、金額ともに不漁の前年に比べ著伸。一方、噴火湾毛ガニ漁は、水揚げ不振から6月中旬以降1か月間の限定操業を20日間に短縮。

(小売商況)

6月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、夏物衣料品、家庭用品が好売れ行

きをみせたものの、一部百貨店の催事手控えや曜日要因(日曜日前年比1日減)が響き、月中では前年実績を若干下回った(前年比 $\Delta 1.6\%$)。7月入り後は夏物衣料品、中元贈答品を中心に比較的順調な売れ行きを示している模様。家電販売は大型カラーテレビ、VTR、冷蔵庫、電子レンジ等を中心に好調持続。自動車販売は新型車の投入効果や軽自動車の好調を映じて、3か月振りに前年実績を上回り、またトラック販売も荷動きの増加等を背景にこのところ持ち直し(6月中管内自動車新車販売台数前年比 $+9.1\%$ (うち乗用車 $+5.8\%$)。観光・レジャー面では、夏休み期間中の宿泊施設、航空便の予約等が好調な動きを示すなど盛況裡に推移。

3. 金融事情(6月中)

- 管内金融機関の実質預金は、金融機関預金、公金預金が増加したものの、前月末休日に伴ない滞留した法人流動性預金の大幅剥落が響き、前年(101億円増)とは様変わりの中5億円の減少。また、貸出も、建設関連等が漸増しているほか、水産加工の原魚買付資金等季節需資に若干の動意がみられたものの全体としての資金需要はなお弱いうえ、地方公共団体向け貸出の回収進捗等から、月中39億円の減少(前年73億円増)。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、月中 $\Delta 0.077\%$ と引き続き低下(前月 $\Delta 0.061\%$)。
- 銀行券は、公務員ボーナスや民間給与払等の現金需要が嵩んだため、月中では68億円の発行超となったが、発行超幅は前月末休日に伴う高止まり分が月初順調に還流したため前年(同83億円)比縮小。
- 財政収支は、公共事業関係費、公務員ボーナス等の支払を中心に月中31億円の払超となったが、払超幅は民営化移行に伴う国鉄関係費の剥落や租税(法人税)の増収を主因に前年(同48億円)比縮小。

6月

昭和62年7月31日



— 日本銀行函館支店 —

1. 概況

- 最近の管内経済動向をみると、生産面で受注の回復から操業度の引き上げ等を図る動きが漸次拡がりをみせている。一方、公共投資、民間建築が引き続き堅調なほか、家電販売等小売商況も底固く、観光・レジャーも盛況を続けている。また、近海マイカ漁が近年にない豊漁。こうした状況から、全体の景況は引き続き持ち直しているように窺われる。
- すなわち、企業の生産活動面では、実需低迷の造船、漁網等は引き続き低操業を余儀なくされているが、公共・民間建築投資の活発化を背景に、合板、合板機械等が高操業を続けているほか、電子部品、製缶機械等も受注回復から生産水準を漸次引き上げ。さらに、水産加工、飼料・魚油、段ボール等でも原魚の豊漁等からここへきてフル生産ないし操業度引き上げに踏み切る先がみられる。この間、建設関連では、公共工事の発注増や民間建築の盛行から、業況は好調。また、個人消費面でも大型小売店、自動車・家電ディーラーの売り上げが底固い動きを示しており、観光・レジャー客の入込みも盛況裡に推移。一次産業面では、近海マイカ漁が近年にない豊漁に沸いているほか、水稲、馬鈴薯等農作物の生育も概ね順調。
- 金融面では、水産加工の原魚買付資金等季節需資に若干の動意がみられたものの、全体としての需資は総じて低調で、管内銀行の貸出約定平均金利も引き続き低下。

2. 主要業種別動向

(造船)

新造船部門ではこのほど新規受注船の建造に着手したほか、陸機部門でも官公需関連の橋梁等の受注が堅調。一方、修繕船部門は官・民間船の修繕需要がやや一服。

(電子部品)

通産省の減産指導の下、引き続き生産抑制姿勢を崩していないものの、国内・外需給の引き締め等を背景に、生産品目を転換しながら、ここへきて生産計画を幾分上方修正。

(機械)

合板機械では、汎用高級機種等に対する内外合板メーカーからの引き合いが引き続き旺盛なうえ、手持ち受注残も高水準とあって、目一杯のフル操業を持続。また、製缶機械では、新規受注が好調裡に推移しているため、時間外勤務の拡大により増産体制を強化。

(化学)

飼料・魚油では、道東沖イワシ豊漁に伴わない原魚が潤沢なうえ、飼料市況の回復や健康食品EPAの需要好調を眺め、生産水準を漸次引き上げ。化学肥料では、農薬が害虫(アワヨトウ)の異常発生に伴うスポット需要に支えられて目下のところフル生産ながら、主力の肥料は農家筋の追肥需要に盛り上がりが見られず依然低調。

(段ボール)

加工食品・青果物向け出荷が、イカ製品や夏野菜(大根等)の順調な荷動きを映じて上向いてきていることから、生産水準を漸次引き上げ。

(水産加工)

近海スルメイカ、遠洋イカ(アルゼンチン沖等)の豊漁に伴う原魚価格低下に加え、消費地問屋筋からの買い注文が夏場需要期入りにより活発化しているため、操業度を漸次引き上げ。この間、メーカー採算は、企業間のばらつきはあるものの、安値原魚手当を主因に総じて好転。

【建設業】

今期比D I 43.5、前年同期比D I 26.1といずれもD Iがプラスを示し、引き続き業績好転を見込んでいる。

細業種でも、すべてD Iがプラスを示している。

【製造業】

今期比D I 9.1、前年同期比D I 1.9といずれもD Iがプラスを示している。

細業種で見ると、漁網業と造船業は今期比前年同期比ともにD Iがマイナスを示し、業績悪化を予想しているが、他は比較的明るい見方をしており、特に水産加工業、窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業が好転を見込んでいる。

【卸売業】

今期比D I 19.2、前年同期比D I 9.8といずれもD Iがプラスを示している。

細業種で見ると、燃料業が今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し引き続き悪化基調を予想している以外は、すべて上向き基調を見込んでおり、織物・衣服・身の回り品業、食料品業、一般機械器具業、建築材料業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【小売業】

今期比D I 5.9、前年同期比D I 4.0といず

れも若干D Iはプラスを示している。

細業種で見ると、各種商品販売業と自動車販売業は今期比でD Iがプラスを示し業績好転を見込んでいるが、食料品販売業は若干マイナスを示しており、その他衣服・身の回り品販売業等は、ほぼ横ばい状態を予想している。

【サービス業】

今期比D I 13.1、前年同期比D I 17.4といずれもD Iがプラスを示し、増収を見込んでいる。

細業種で見ると、自動車整備業が今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し業績悪化を予想している以外は、すべて好転基調を見込んでおり、特に夏場の観光シーズンを迎えてホテル・旅館業と娯楽業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

3、資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業 9.0%に対し、「悪化」とする企業8.5%でD I 0.5を示し、「変わらない」とする企業が82.5%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I△4.6、製造業D I△12.8、卸売業D I△1.9、小売業D I 16.7、サービス業D I 8.7を示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変わらない」としている。

統計資料

第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店)
昭和62年6月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	2,606,084	93.2	102.4
身回用品	457,645	90.9	97.7
雑貨	521,686	85.1	57.4
家庭用品	610,789	101.4	97.8
食料品	1,456,568	92.2	94.6
食堂・喫茶	167,171	95.3	96.4
サービス	52,443	83.1	90.5
その他	584,285	145.5	239.6
総計	6,456,671	95.9	98.4

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパズプラザ湯の川店の各店をいう。

業種別にD Iをみると、建設業と製造業はマイナス、卸売業、小売業、サービス業はプラスを示しているが、各業種とも大半の企業が「変わらない」としている。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (0.4)	13.7	73.9	13.3
建設業 (-4.5)	9.1	77.3	13.6
製造業 (-18.1)	4.9	72.1	23.0
卸売業 (3.7)	16.7	70.3	13.0
小売業 (11.7)	17.6	76.5	5.3
サービス業 (21.8)	25.1	69.6	4.3

5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で39.0%を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業25.0%、製造業43.2%、卸売業44.3%、小売業46.8%、サービス業10.5%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「純利益の減少」・「同業者間の競争」がそれぞれ20.8%、製造業では「景気の見通し難」19.0%、「製品安」17.2%、卸売業では「販売価格の値下り」21.2%、「景気の見通し難」11.5%、小売業では「純利益の減少」17.0%、「客足の減少」14.9%、サービス業では「同業者の競争」が47.4%でトップ、「客足の減少」「人件費の増加」・「求人難・人材難」がそれぞれ10.5%等となっている。

来期 (7月~9月) の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業29.9%に対し、「横ばい」企業57.5%、「悪化」するとみる企業12.6%でD I 17.3、また前年同期比でみると「好転」するとみる企業28.4%に対し、「悪化」するとみる企業11.8%でD

I 16.6と、いずれもD Iがプラスを示し、好転を予想している。

業種別にみると、今期比では建設業がD I 25.0、製造業D I 11.3、卸売業D I 27.3、小売業D I 9.8、サービス業D I 18.2とすべてD Iがプラスを示し、比較的明るい見方をしている。

また、前年同期比でもすべてD Iがプラスを示しており、特に建設業 (D I 26.1) と卸売業 (D I 22.2) が好転基調を見込んでいる。

このように来期の業況は、各業種とも明るい見方をしており、好転が予想される。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (16.6)	28.4	59.8	11.8
建設業 (37.4)	45.8	45.8	8.4
製造業 (6.7)	26.7	53.3	20.0
卸売業 (22.2)	33.3	55.6	11.1
小売業 (12.0)	20.0	72.0	8.0
サービス業 (17.4)	21.7	74.0	4.3

2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業31.9%に対し、「横ばい」企業51.4%、「減少」するとみる企業16.7%でD I 15.2とプラスを示し業績好転を見込んでおり、また前年同期比でも、

図-6 来期の売り上げ見通し (対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (9.0)	28.5	52.0	19.5
建設業 (26.1)	43.5	39.1	17.4
製造業 (1.9)	20.8	60.3	18.9
卸売業 (9.8)	33.3	43.2	23.5
小売業 (4.0)	26.0	52.0	22.0
サービス業 (17.4)	26.1	65.2	8.7

「増加」企業28.5%に対し、「横ばい」企業52.0%、「減少」企業19.5%でD Iは9.0とプラスを示している。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

年同期D I 29.2といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみると、総合工事業、設備工事業職別工事業のいずれもD Iがプラスを示し好転している。

このように今期の建設業界は、公共事業、民間建築とも堅調に推移しており、好調を維持した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比ではD I 8.4 とプラスを示し業績は上向いているが、前年同期比ではD I Δ 13.8とマイナスを示している。

細業種でみると、造船業は前期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し業績悪化を訴えているが、逆に金属・一般機械器具業はともにD Iがプラスを示している。また、水産加工業は前期比ではD Iがプラス、前年同期比ではマイナスを示し、他の業種もほぼ同様傾向となっている。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I 18.2、前年同期比D I Δ 3.7と前期比ではD Iがプラスを示し、好転基調で推移した。

細業種でみると、建設業界の好調を背景に建築材料業は前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し業績好転しており、医薬品・化粧品業と一般機械器具業も同様傾向となった。しかし、逆に、販売価格の値下りを訴える燃料業は前期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し、依然として業績は悪化している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I Δ 7.8、前年同期比D I Δ 8.3といずれもD Iが若干マイナスを示している。

細業種でみると、食料品販売業は前期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し悪化

基調で推移したが、その他は、自動車販売業、各種商品販売業、衣服・身の回り品販売業等ほぼ横ばい状態となった。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 43.4、前年同期比D I 45.5といずれもD Iが大幅にプラスを示し、業績は好転している。

細業種でみると、自動車整備業が前年同期比でD Iがマイナスを示している以外は、すべて上向いており、特にホテル・旅館業、クリーニング・理美容業は、前期比、前年同期比ともに過半数の企業が「増加」と回答している。

3, 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業24.2%に対して、「横ばい」企業49.3%、「減少」している企業26.5%でD Iは Δ 2.3、また前年同期比でも「減少」企業27.1%が「増加」企業24.8%を上回ってD I Δ 2.3と、いずれもD Iは若干マイナスを示し減少傾向が続いている。

図-3 今期の純利益（対前年同期比）

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (-2.3)	24.8	49.3	26.1
建設業 (-17.4)	8.7	65.2	26.1
製造業 (-18.3)	16.7	49.3	35.0
卸売業 (-7.2)	32.7	41.8	25.5
小売業 (-6.0)	28.0	50.0	22.0
サービス業 (-11.7)	36.4	40.9	22.7

業種別にみると、製造業の金属・一般機械器具業、卸売業の建築材料業、一般機械器具業、サービス業のホテル・旅館業がそれぞれ採算面で明るさをみせている。

4, 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業13.7%に対し、「悪化」した企業13.3%でD Iは0.4を示しているが「変わらない」とする企業が73.0%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

経済の窓

(昭和62年度 第1・四半期)

景気動向
調査

昭和62年度第1・四半期（昭和62年4月～6月）の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	278社	70.4%
建設業	50	32	64.0
製造業	100	77	77.0
卸売業	80	62	77.5
小売業	120	78	65.0
サービス業	45	29	64.4

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期（4月～6月）の実績

1, 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると前期に比べ「好転」している企業36.6%に対し、「横ばい」企業49.0%、「悪化」している企業14.4%で、D Iは22.2とプラスを示している。

これを業種別にみると、建設業D I33.3、製造業D I15.9、卸売業D I29.0、小売業D I9.8、サービス業D I39.2といずれもD Iがプラスを示し好転している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業32.0%に対し、「横ばい」

企業45.8%、「悪化」企業22.2%で、D Iは9.8を示しており、前年に比較してもやや上向いている。

これを業種別にみると、製造業以外はすべての業種でD Iがプラスを示しており、特に建設業(D I37.4)とサービス業(D I31.9)が好転している。

このように今期の業況は、企業の生産活動や個人消費が上向き基調、建築関連も好調を維持、また、季節的に観光・サービス関連も好転する等、各業種とも上向いており、回復の兆しをみせた。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (9.8)	32.0	45.8	22.2
建設業 (37.4)	54.1	29.2	16.7
製造業 (-3.4)	23.3	50.0	26.7
卸売業 (9.6)	34.6	40.4	25.0
小売業 (2.3)	26.7	48.9	24.4
サービス業 (31.9)	36.4	59.1	4.5

2, 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業37.1%に対し、「横ばい」企業39.9%、「減少」している企業23.0%で、D Iは14.1とプラスを示し業績は好転している。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると全業種では「増加」企業30.6%に対し、「横ばい」企業40.3%、「減少」企業29.1%で、D I 1.5と若干プラスを示し上向き基調で推移した。

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (1.5)	30.6	40.3	29.1
建設業 (29.2)	41.7	45.8	12.5
製造業 (-13.8)	19.1	48.2	32.8
卸売業 (-3.7)	31.5	33.3	35.2
小売業 (-8.3)	29.2	33.3	37.5
サービス業 (45.5)	50.0	45.5	4.5

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 37.5、前

クルマ社会の防衛策

賠償責任から

労災責任まで



●著者／弁護士 福嶋弘榮



第八章

従業員が自分の車で通勤
途上に人身事故を起した
(7月号よりのつづき)

前章は、従業員が会社の自動車を無断で持ち出し、人身事故を起こしたときも、会社が責任を負うことがあるという例でした。一方、従業員が自分の自動車を運転していて人身事故を起こした場合も、会社が被害者に対し損害賠償責任を負うことがあるのです。

小さな会社や個人商店などでは従業員の自動車を自己の業務のために使用していることがよく見受けられます。その業務に従業員の自動車が使われているときに事故が起きれば、会社や商店主は賠償責任を負わなければなりません。なぜなら、その自動車は会社や商店主の業務のために運行されているのですから、その自動車の運行の支配も利益も会社や商店主にあることは明らかで、運行供用者としての責任を問われます。たとえ、物損事故の場合であっても民法七一五条の使用責任は容易に認められることになるでしょう。



従業員所有の自動車を会社のために使用したりするのはとても危険なのです。会社の自動車を従業員

が無断で私用に使ったときでも任意保険さえ十分に付けておけば賠償問題も保険で解決できます。しかし従業員に車に保険がついていなければ、会社は自己の財産でその賠償金をまかなわなければなりません。

従業員の自動車を会社のために使っているときの危険は、こればかりではありません。会社や商店主の業務のためばかりでなく、従業員がその車で通勤途上に起こした事故であっても、会社や商店主は損害賠償責任を負うことがあります。

通勤途上であれば、会社の業務とは関係ないということで、会社が賠償責任を負うのはおかしいとも考えられるでしょう。

しかし、従業員の出勤日にはその自動車が会社のために使用されており、その自動車については会社が運行供用者であるといわれてもやむを得ないのです。

通勤途上の事故であれば、通勤は会社の業務につくための事前の過程なので、全くの私用ともいえ、会社や商店主が運行供用者として賠償責任を追求されても文句を言えないのではないでしょう。

なお、従業員にマイカー通勤を認めておれば、ちよつとした会社の用事でマイカーが使われることがあるかもしれません。そのような自動車で事故が起これば必ず会

業務用冷凍食品・高級惣菜製造

水産物加工食品・学校給食用食材製造

(有) 飯塚食品産業

工場 函館市元町30番12号
冷蔵庫 TEL (代表) (0138) 23-5868
テレファックス (0138) 22-6890

直売店 函館西武B1 味処津和野
棒二森屋(本館)B1 マキシムドウ 瀬里奈